

道神青

揮毫
中野庁長

第2号

北海道
神道青年協議会
平成5年3月25日発行



平成四年度を振り返って

北海道神道青年協議会 会長 北方 幸彦



第六十一回神宮式年遷宮に

国民総参宮を！

昨年は、年度始めの四月に開催されました、神道青年全国協議会中央研修会という当会にとつては昭和五十七年以来、十年振りの一大行事がございましたが、役員はもとより会員皆様のご協力により無事盛会裡に終了させて頂くことができました。また、研修会開催にあたり道内各神社より過分なるご協賛を賜りましたことに対しましても、あらためて厚く御礼を申し上げる次第でございます。

定例総会、秋の野球大会並びに青森神青との交流会、そして平成四年度研修会と恒例の行事も恙なく終えさせて頂くことができました。もとより道内十五単位の集合体としての性格色濃い当会としては、全会員が集う事業には限界が有りますが、各単体会間の一層の交流などを通して各会がより刺激しあい、斬新な発想を以て今後も各単位の事業展開がなされ、その活力が道神青活動に反映される事を願って止みません。

今年の神戸での中央研修会は、今までも増して各自の資質が問われたものとなりました。研修会を通しての成果を今後の日々の奉仕に生かすも殺すも、総て各自の引出しの間口と興行き如何にかかっているものと存じます。斯界の内外に向けて神道のこころを叫ぶ以前に、私どもも職職に在る者がその内実とする根幹をよく見極め、より強固な理論構築を図る為の日々の修養研鑽に努めて参らねばならないものと痛感する次第です。

平成三年春、図らずも当会々長並びに神青協副会長という大任を仰せつかり、小職にとりましては身に余る重責ではありましたが、皆々様のご支援ご協力によりその任を終えさせて頂くことができました。この場をお借りして衷心より厚く御礼申し上げます。

各単位会のご隆盛と道神青の益々の発展を祈念してご挨拶と致します。

平成四年度 活動報告

平成三年度神青協中央研修会 札幌市にて開催

研修会主題

「世界にとどけ日本のこころ」

平成三年度神道青年全国協議会中央研修会が、四月七・八日の両日全国各地から全員四百三十名が参加して札幌市・ポールスタール札幌にて開催された。

「世界にとどけ日本のこころ」

(国際協調時代における環境問題と北方領土の問題を考へる)をテーマに七日午後二時から開講式が行われ、神宮皇居遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き道神青北方会長が主管地区を代表して挨拶、次いで神青協吉川会長が式辞を述べ、来賓を代表して道神社庁中野庁長より祝辞を戴いた。

研修第一講は、木村汎国際日本文化研究センター教授より、「エリイツインの来日と北方領土」と題しての講演があり、ロシアにおけるエリイツインの脆弱な政治体制と、混乱を深める経済体制について指摘し、ロシアを救う事の出来る唯一の国として我が国の取るべき政治、経済両面にわたる姿勢が今後問われるであろう。



う。予定されているエリイツインの来日時に日本の経済援助と引換えに一気に北方領土という土産を持つてくる可能性も高いと指摘し、参加者の関心を集めた。

次に後志青年神職雅友会による勇壮な舞楽『右方還城楽』が披露され、過去神青協定例表彰を受けた見事な舞楽を、参加者は熱心に鑑賞した。



第二講は、宮脇昭横濱国立大学教授により、「鎮守の森から地球環境を見つめて」と題しての講演があり、スライドを多用して森林の望ましい

姿を解説し、荒れ地に人工的に造り育てている実例をも紹介し、鎮守の森の破壊は人間の死を意味するものであり、緑を護ることの意義、とりわけ鎮守の森を日々護持している神職は今以上にその大切さを認識するよう訴えられた。

第一日終了後は懇親会が開催され、参加者一同和気藹々の内に懇親を深め合った。

研修会二日目の八日は、著名な作家C・W・ニコル氏が「文化と自然」と題し、自らの生い立ちを通して、如何に自然や森林に馴染んできたか、エチオピア自然公園捕獲監視官としての逸話や、和歌山県太地町での捕鯨調査の経験を通しての、環境問題を流暢な日本語で講演した。

最後に、日本の食卓を守る事こそ日本文化を守る事であり、それを古来から守り伝えてるのが神宮の神饌ではないかと指摘された。



北海道地区では、昭和五十七年春に続き、二回目の中央研修会もこうして無事終了した。

本研修会開催に当たっては、道神社庁を始め、道内神社から特別協賛金を頂戴し、更に舞樂奉奏に際し、北海道神宮及び小樽住吉神社の特段のご好意に預かり、ご関係各位に衷心より感謝の意を表する次第である。

平成四年度会務報告

(神青協関係も含め)

〈平成四年〉

四月二十二日 神道青年全国協議会

第四十四回定例総会

(神社本庁)

五月二十六日 道神青第一回役員会

(北海道神社庁)

北海道神道青年協議会

平成四年度定例総会

(北海道神社庁)

六月 九日 神青協沖繩本土復帰

二十周年奉告祭

(波照間島)

六月 十一日 神青協沖繩本土復帰

二十周年記念戦没者慰霊祭

(沖縄県護国神社)

平成四年度定例総会

平成四年五月二十六日、北海道神道青年協議会平成四年度定例総会が開催された。

午後二時開会、神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き道神社庁高橋参事よりご祝辞を戴き、議事に入り議長には上川神青狩野会員が選出され、議事の採択、平成三年度会報報告、同一般・事業会計決算中央研修会決算等の承認を受けた。

引続き、平成四年度事業計画案一般会計予算案等が承認され、当会より出向している神青協各特別委員会委員より活動内容について説明があり、最後に各単体会報告が行われ閉会した。

第十一回北海道神社庁杯

第九回北海道神宮杯争奪野球大会
並に青森県神道青年会との交流会

恒例の道神青野球大会が、平成四年十月二日、札幌市南二十二条野球場にて開催された。秋晴れのもと全道各地より九十余名の会員が参加し、またこの数年交流を続けている青森県神道青年会の一行も当日早朝、札幌駅に到着し青森神青チームとして参加した。

残念ながら試合中二名が負傷し一人はアキレス腱断裂の重症となったが、参加者一同は日頃の運動不足を自覚しつつ懸命に白球を追って駆けまわっていた。

閉会式では、優勝の後志神青チームに北海道神宮原口権宮司より庁長杯と道神宮杯がわたされ、懇親会では遠来の青森神青会員も交え両神青会の末永い交流を誓い合った。



(青森神青と渡島神青)

平成五年度

道神青研修会について

日時

平成五年六月
二十四・二十五日

於

帯広グランドホテル

担当

十勝青年神職会

講師

國學院大學
教授 中西正幸先生

演題

「今、時空を越える
御遷宮」

詳細は、担当神青からご案内が有ります。
多数のご参加をお願い申し上げます。



七月二十八日 道神青第二回役員会 (北海道神社庁)

九月 三日 神青協夏期セミナー (本庁・富士吉田市)

〓五日

十月 二日 道神青野球大会 (札幌市)

青森神青との交流会

十月 二十日 道神青

〓二十一日 平成四年度研修会 (北見東急ホテル)

十月二十一日 道神青第三回役員会 (北見東急ホテル)

(北見東急ホテル)

十二月 十日 道神青三役会 (札幌諏訪神社)

(札幌諏訪神社)

〓平成五年

二月二十二日 道神青第四回役員会 (北海道神社庁)

(北海道神社庁)

三月 四日 神青協平成四年度

〓五日 中央研修会

(ホテルオークラ神戸)

北海道神道青年協議会研修会開催
於・北見東急ホテル

平成四年度の北海道神道青年協議会研修会が、昨年十月二十・二十一日の両日、網走・紋別両神道青年会が担当して北見東急ホテルに於いて道内各地から会員の他受講生七十名余りが参加し開催された。

研修会第一講は、日本を守る国民会議事務総局中山直也氏を講師に迎え、最初に同会議が制作した映画『皇室と日本人』が上映された後、天皇皇后両陛下御訪中問題について、今の中国は第三世界への主要武器輸出出国であり、天安門事件などの人権抑圧で欧米諸国から非難されており、我国とは尖閣列島帰属問題で、先日中国側が

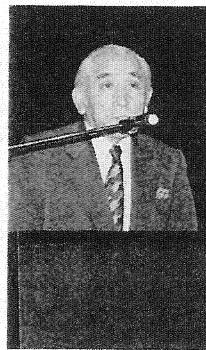


一方的に領土宣言をするなど、両国間は極めて政治的に不安定な現状にあるという認識を示す一方、日本側の対応について宮沢総理を始め、自民党首脳や特に外務省が両陛下御訪中に殊の外熱心で、将に中国政府のお先棒担ぎをしている。この様な状況下での両陛下御訪中には、日本を守る国民会議として早い時期から政治的な利用をしないよう政府にも申入れてきた。また中国の民主化要求グループからは、「御訪中は独裁政権である現政権を政府として容認するものである」とも批判しており、こうした諸問題が内在しているこの度の御訪中である事を改めて解説した。

次いで制定以来五十年近く経過した現憲法について、新しい平成憲法の制定の必要性と基本理念について講演した。

翌二十一日は、常呂町で水産加工会社を経営し、現在北海道社会教育委員連絡協議会会長を務める、新谷淳治氏が『生と死』と題して講演し、人生五十年の時代から八十年となり、仕

事だけの価値観から長寿社会に於ける生き方について、日常生活の中から如何に人生の生きがいを見出す事ができるかを、ご自身の御父君の死を通して教え諭された感慨を述べ、人の一生は臨終を迎える時に評価されるといわれるが、将に日々を如何に生きてきたのかの拘りを持ち続ける事の意義について、豊富なご経験を通過しての含蓄ある講演を拝聴した。



平成四年度道神青 協賛金御礼

- 【札幌】北海道神宮・三吉神社・豊平神社・諏訪神社・弥彦神社・札幌護国神社・篠路神社・琴似神社・新琴似神社・白石神社・江別神社・当別神社・千歳神社
- 【渡島】神社庁道南支部
- 【桧山】姥神大神宮・上ノ國神社・八幡神社・根崎神社・久遠神社・澳津神社・事比羅神社・真駒内神社・八幡神社
- 【後志】住吉神社・竜宮神社・小樽稲荷神社・水天宮・天満宮・潮見ヶ

- 岡神社・豊足神社・高島稲荷神社・塩谷神社・余市神社・仁木神社・古平琴平神社・美国神社・巖島神社・泊稲荷神社・岩内神社・小沢神社・俱知安神社・京極八幡神社・喜茂別神社・留寿都神社・真狩神社・狩太神社・八幡神社・大鳥神社・寿都神社

【空知】空知青年神職会

- 【上川】鷹栖神社・旭川神社・上川神社・神楽神社・東神楽神社・神居神社・雨粉神社・永山神社・当麻神社・比布神社・愛別神社・大上川神社・東川神社・美瑛神社・上富良野神社・中富良野神社・富良野神社・山部神社・和寒神社・剣淵神社・土別神社・上士別神社・多寄神社・風連神社・名寄神社・下川神社・美深神社・中川神社・北海道護国神社

【留萌】留萌神道青年会

- 【宗谷】宗谷青年神職会
- 【網走】網走青年神職会
- 【紋別】紋別神道青年会
- 【胆振】胆振青年神職会
- 【日高】神社庁日高支部
- 【十勝】十勝青年神職会
- 【釧路】釧路管内神社青年会
- 【根室】根室神道青年会

各単位会を通じてお納め戴いたご協賛に対し厚く御礼申し上げます。

神青協の活動

神道青年全国協議会

第四十四回定例総会

平成四年四月二十二日、本社本庁において神道青年全国協議会の定例総会が開催された。

副議長に当会より森泰文君が選出され、全国の代議員により議案審議が行われた。(詳細は神青協通信第三十六号掲載記事参照)

神青協

沖縄県本土復帰二十周年記念事業

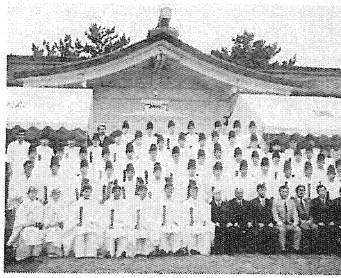
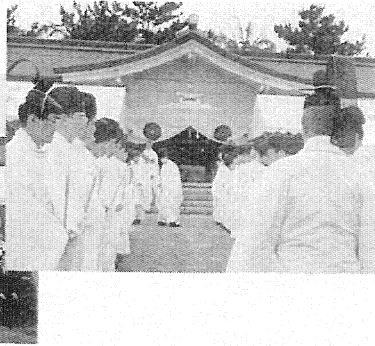
○波照間島／復帰二十周年奉告祭

○沖縄県護国神社／戦没者慰霊祭

平成四年六月九日～十一日、神青協の沖縄県本土復帰二十周年記念事業として二つの祭典が斎行された。

六月九日は、最南端の波照間島・聖寿奉祝の碑前にて石川神青協副会長齋主により、本土復帰二十周年奉告祭が斎行され、当会より帆立の干物を他を神饌として供し、北方会長、芦原副会長が参列した。翌十日は沖縄県神青創立十周年記念式典、九州地区神青研修会「琉球の歴史と文化」「沖縄の御獄(うたき)信仰とその

現状」の講演があり、十一日沖縄方面にて亡くなられた全国の戦没者を祀る沖縄県護国神社大前にて、又吉宮司齋主のもと全国神青会員奉仕により慰霊祭が斎行され、当会から玉串料を供し、北方会長が副齋主として奉仕、芦原副会長、関先輩が参列した。(詳細は神青協通信第三十七号掲載記事参照)



神青協・平成四年度夏期セミナー

平成四年九月三日～五日の三日間、恒例の神青協・夏期セミナーが本社本庁及び富士吉田市の人材開発センター富士研修所にて、全国から七十六名の参加者により開催された。

テーマは「神道の死生観を考へる」

初日、本庁にて高千穂神社宮司後藤俊彦氏による基調講演があり会場を富士研修所に移して、國學院大學安蘇谷教授の講演の後、助言者の同上田教授との激論を参加者も興味深く拝聴し、二日目からは「人の死をどう説くか」「神葬儀式の意義について」「祖霊社／神葬墓地の問題」の三分科会に分かれて活発な意見交換を行った。

(詳細は神青協通信第三十八号掲載記事参照)

神青協・臨時総会

平成五年一月二十九日、本社本庁において神道青年全国協議会の臨時総会が開催された。全国単位会の代議員七十四名(当会三名)が出席し、平成四年度会務報告、沖縄県本土復帰二十周年記念事業特別会計収支計算書報告、会務・会計監査報告、次期会長監事選出が行われた。

次期会長・監事選出にあたっては、各地区理事により前日開催された選考委員会の結果が報告され、満場一致で左記の通り会長・監事が選出された。

会長 西高辻信良君

(九州地区・太宰府天満宮宮司)

監事 石川正人君

(関東地区・師岡熊野神社宮司)

監事 芦原高穂君

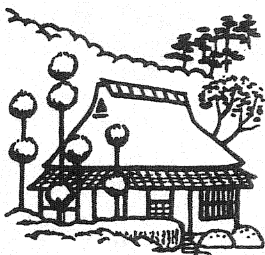
(北海道地区・旭川神社禰宜)

監事 川村公彦君

(四国地区・天神社宮司)

議案審議終了後、國學院大學中西正幸教授が「式年遷宮について」と題して講演を行った。

(詳細は神青協通信第三十九号掲載記事参照)



神青協・平成四年度中央研修会

主題「好きやねん神さん」
—響け、言霊のオーケストラ—

平成四年度の神道青年全国協議会中央研修会が、近畿地区・兵庫県神道青年会の主管により平成五年三月四・五日、神戸市のホテルオークラ神戸にて四百六十七名の参加者により開催された。



今回は過去の中央研修会とは趣を変え、国際都市神戸にふさわしく神道を内と外から捉えようとの試みが随所に見られ、前例のない斬新な研修会となった。

基調講演としてイギリスのライフサイエンティスト・ライアルワトソン氏による、「神と生物学」と題する講演が同時通訳を使って行われ、

その後は編集工芸研究所所長・松岡正剛氏が企画進行役となり、斯界の内外の六人の講師を交え、第一分科会「神はどのように表現されてきたか」第二分科会「外から見た神社、内から見た神道」第三分科会「場所と記憶の中にひそむ神々」に全員が分れ、その後各分科会の発表が行われた。

翌五日は、各講師がパネリストとなり研修会全体の総括を行った。

当会からは三十名の会員が参加し、研修会終了後に現地解散した会員を除き、二十二名が神戸三社（長田・湊川・生田神社）を参拝し、大阪に移って懇親会を開催し、翌日午前には大阪天満宮を参拝して空路帰着した。



（神戸・長田神社にて）

神青協事業委員会頒布品

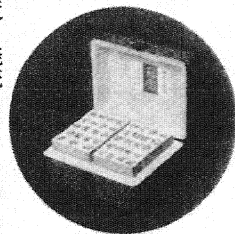
神青協では次の品目を制作・販売致しております。ご注文は神青協事業委員・小樽住吉神社星野禰宜までお申込下さい。

◆和傘

（白と茶の二種類）
頒価 五、〇〇〇円

◆宮印

祈禱札用祈願名印
家内安全・商売繁昌
開運厄除・社運隆昌
病氣平癒・身体健全
合格祈願・作業安全
心願成就・初宮詣
上質ゴム印・特製木箱入



特製印箱×10点セット
頒価 8,000円
（送料別）

◇近日発売

大型装束カバン

正服や斎服を折らずに収納可能
丈夫な合成皮革一〇〇個限定品

お知らせ

▼元副会長・手塚裕紀先輩よりご自身の宮司就任を記念して、当会に過分なる寄贈金を頂戴致しました。
厚く御礼申し上げます。

▼先般の釧路沖地震に際し、青森神青会より過分なる御見舞金を頂きました。ご芳志を深謝し当会からの御見舞金を添えて、釧路神青を通じ釧路市にお送り致しました。

北海道にも遅い春が到来して御社務愈々ご繁忙の季節を迎えました。
平成三年春、発足の北方執行部も無事任期を終えました。通信第二号は平成四年度を振り返って会務報告を兼ねて編集致しました。

今後、道神青の諸活動を会員を始め全道神社の皆様にご理解戴く為に折々発行して参りたいと存じます。
平成五年はいよいよ御遷宮の年を迎え、国民総参宮の実を挙げるべく会員一同、新たな決意を以て日々のご奉仕に励みたいものです。
ご関係皆様の更なるご教示をお願い申し上げます。
（芦）